はじめに

1．子育てのいま

近年、わが国では、密室育児や親の子育て能力の低下、児童虐待問題など子育てをめぐる社会問題がさまざまな場面において議論されるようになっている。従来、地域コミュティや家庭には、成員同士の相互扶助があり、そこに解決機能が付随していた。しかし、地域社会や家族形態が変質すると、そうした機能が崩壊し、個々の人間を私事化し、孤立化する傾向を強めていった。

特に現代では、子育て期にある親にとって地縁や血縁によるネットワークが得にくい環境となっており、そのため、多くの親が育児ストレスや子育ての負担感を経験するようになった。さらに、専業主婦による児童虐待も大きな社会問題となっている。このような諸問題の解決策が求められている。

2．ソーシャルキャピタルへの期待

そこで、本書では、研究史の整理から始めることにしたい（序編）。これまでの子育てに関するネットワークの研究では、子育てのサポート資源として、親族ネットワークが重視され、その密度や量によって親たちの子育て状況に対する影響を検証するという立場からの分析が主流であった。これらの研究の到達点は、以下の諸点である。すなわち、①親族サポートにおける支援提供者の属性は、妻方親族が中心である、②子育てをめぐる精神的負担は、親族だけでなく非親族からの支援によっても軽減する、③サポートを多く持つ親は、親族・非親族に限らず多くの資源を持つ傾向にある、④多様化する家庭へのサポートネットワーク事業として、育児ストレスが高いとされる専業主婦世帯に対する子育て支援事業の強化とその必要性、⑤近年の研究になると、パートナーである夫によるサポートの重要性が示されている。

しかしながら、①以上の子育て支援事業やネットワーク研究では、夫婦である両親、特に妻である母親をサポートの受け手として捉えているため、②支援

する者が親たちの子育て負担を軽減し、その環境を改善していこうとする一方向の支援となっているケースが多い。つまり、子どもの親を子育て支援サービスの客体として扱っているということになる。③そのため、親たちの負担軽減ばかりに主眼が置かれ、親自身の子育てに対する主体性の獲得や親が親として成長できるような育成面での支援はほとんど実施されてこなかった。④それゆえ、子育て支援事業の再整備と親たちに対する見方を変える必要がある。つまり、親こそが豊かな資源を持つ、ソーシャルキャピタルそのものだと捉え直すことが重要となってくる。

3. 本章の位置付け

上記の問題意識にもとづき本書では、①ニュージーランドの親たちが始動した協働保育活動であるプレイセンターに着目し、②親の参加によって創出されるソーシャルキャピタルとその効果について日本とニュージーランドの事例分析を通じて検証する。③それを通して、地域コミュニティの活性化や親たちの子育て力養成、成員相互のネットワーク強化の方策を導出している（第Ⅰ編および第Ⅱ編）。

つまり、子育ての当事者である親たちがプレイセンターにおいて協働することは、メンバーとなる成員間の互酬性を高め、親がお互いを人的・物理的資源として活用し合うソーシャルキャピタルを創出する機会となる。本書では、その過程を解明している。この点が本書における独創性である。

さらに、プレイセンター活動を通じて親たちが蓄積したソーシャルキャピタルには、わが国の子育て支援の文脈のなかで、価値のある資源となり、今後の子育て支援策として応用できる可能性があることを提示していく（終編）。

親こそがソーシャルキャピタル
—プレイセンターにおける協働が紡ぎだすもの—

目　次

はじめに …… i

序　章　研究課題・方法 …… 1

第１節　問題意識　1

第２節　研究課題　4

第３節　研究方法　7

第４節　本書の構成　9

序編　研 究 史

第１章　研究史における本書の位置 …… 16

第１節　「子育ての社会化」に関する研究　16

第２節　「社会的ネットワーク」に関する研究　19

（1）「子育てネットワーク」研究　19

（2）「ソーシャルキャピタル」研究　22

第３節　「プレイセンター」研究　27

第４節　小括　30

第Ⅰ編　ニュージーランド・プレイセンター運動の胎動と展開

第２章　ニュージーランドにおけるプレイセンター運動…… 36

第１節　問題の所在　36

第２節　ニュージーランドにおけるプレイセンター運動の概況　37

（1）　幼児教育政策史におけるプレイセンターの位置

づけ　37
（2） 行政改革前の育児政策と母親観　44
（3） 行政改革以降の育児政策と母親観　47
第3節　プレイセンターの組織概要　51
第4節　分析の枠組みと作業仮説　55
第5節　調査の概要　57
（1） 調査の目的　57
（2） 研究対象と調査方法　58
第6節　事例研究　59
（1） プレイセンター活動の歴史的背景　59
（2） 行政改革後におけるプレイセンター運動　62
（3） 調査対象者の概要　67
（4） 主要都市のプレイセンター　69
（5） 地方都市のプレイセンター　86
（6） プレイセンターの参加者像　96
第7節　類型別の特徴と比較研究　98
（1） プレイセンター参加への意味づけ　98
（2） 親に対する教育効果　99
（3） 参加者とコミュニティにおけるネットワーク形成に関する影響　100
第8節　小括　101
（1） プレイセンターを選択するということ　101
（2） 地域性と学習意欲　101
（3） 参加者の確保　102
（4） 親たちの学習効果　103
（5） プレイセンターは親のキャリアとなるのか　104
（6） 親たちの子育てネットワーク　105
第9節　結論　108

第Ⅱ編　日本・子育て支援施策モデルとしてのプレイセンター活動

第３章　日本におけるプレイセンター活動の実践 …… 116
第１節　問題の所在　116
第２節　日本の少子化対策と子育て支援　118
（１）少子化対策とは　118
（２）少子化対策における子育て支援の課題　131
第３節　日本プレイセンター協会の概要　134
第４節　日本におけるプレイセンター活動　140
（１）問題の所在　140
（２）調査の目的　142
（３）研究対象と調査方法　144
（４）分析の枠組みと作業仮説　148
第５節　市民先導型の事例：「プレイセンター・ピカソ」　149
（１）市民先導型を代表する「プレイセンター・ピカソ」の略歴　149
（２）「プレイセンター・ピカソ」の活動内容　152
（３）「プレイセンター・ピカソ」に通う動機づけ　155
（４）親に対する教育効果　167
（５）参加者とコミュニティにおけるネットワーク形成に関する影響　176
（６）「プレイセンター・ピカソ」の参加者像　184
第６節　行政先導型の事例：「恵庭市プレイセンター」　187
（１）行政先導型プレイセンターのさきがけ：「恵庭市プレイセンター」の略歴　187
（２）「恵庭市プレイセンター」の活動内容　191
（３）「恵庭市プレイセンター」に通う動機づけ　194
（４）親に対する教育効果　199

（5）　参加者とコミュニティにおけるネットワーク形成に関する影響　*207*
（6）「恵庭市プレイセンター」の参加者像　*214*
第7節　類型別の特徴と比較研究　*217*
（1）　行政と民間主体によるプレイセンター参加への意味構成　*218*
（2）　活動実績による親たちの学習に対する成果　*220*
（3）　参加者とコミュニティにおけるネットワーク形成に関する影響　*222*
第8節　小括　*223*

終編　総　　括

第４章　プレイセンター参加者の日本・ニュージーランド比較…　*230*
第1節　比較1：参加の動機づけ　*231*
（1）　共通点　*232*
（2）　ニュージーランド特有の参加理由　*232*
（3）　日本特有の参加理由　*233*
第2節　比較2：親の教育効果　*236*
（1）　共通点　*236*
（2）　ニュージーランド特有の教育効果　*239*
（3）　日本特有の教育効果　*240*
第3節　比較3：地域コミュニティのネットワーク形成について　*241*
（1）　共通点　*241*
（2）　ニュージーランド特有のコミュニティに関する語り　*243*

（3） 日本特有のコミュニティに関する語り　245
第4節　小括　246
（1） ニュージーランドの参加者　246
（2） 日本の参加者　247
第5節　結論　248

終　章　ソーシャルキャピタル蓄積におけるプレイセンターの役割 …… 250
第1節　要約　250
第2節　まとめと考察：プレイセンターとはいかなる場所か　253
（1） 社会のなかで子育てをする場　253
（2） 親も子も共に成長する子育て支援の場　254
（3） コミュニティへの帰属意識を育て、貢献する場　255
第3節　日本におけるプレイセンター活動の社会的意義と課題　256
第4節　今後の研究課題・提言　258
（1） 課題　258
（2） 提言　260
（3） 結論　261

おわりに …… 263

参考文献リスト …… 268

【図表・資料一覧】

図 1-2-1　パーソナルネットワークの拡がり
図 2-2-1　ニュージーランドの保育補助金システム
図 2-2-2　幼児教育への参加者の推移（1990-2008）
表 2-2-3　子育てに従事する専業主婦の推移
表 2-2-4　Mckinlay による Motherhood の 4 類型
図 2-2-5　ニュージーランド・男女年齢別労働力曲線
表 2-3-1　プレイセンターの組織概要
図 2-3-2　プレイセンターの三要素
資料 2-3-3　学習テキスト
図 2-6-1　女性の年齢階級別労働力率の推移（1951-2001・ニュージーランド）
図 2-6-2　ニュージーランドの幼児教育・学校教育のシステム図
表 2-6-3　調査対象者プロフィール
表 2-6-4　地方都市のアンケート調査対象者プロフィール（W プレイセンター現役）
表 2-6-5　自由記述によるプレイセンター活動への動機づけ
表 2-6-6　自由記述による地域との関わり
表 2-7-1　インタビュー調査における参加者の特徴
表 3-2-1　新エンゼルプラン目標数値一覧表
表 3-2-2　新エンゼルプランの進捗状況表
表 3-2-3　次世代育成支援対策推進法の骨子
図 3-2-4　次世代育成支援対策推進法のイメージ図
表 3-2-5　子ども・子育て応援プランにおける 4 つの重点課題
表 3-2-6　子ども・子育て応援プランの目標数値 2005-2009 年度
図 3-2-7 「子ども・子育てビジョン」における子育て支援の方向性
図 3-2-8　自分の時間で子育て期に並行して行いたいこと
表 3-3-1　日本プレイセンター協会の活動年表
表 3-4-1 「プレイセンター・ピカソ」調査対象者プロフィール
表 3-4-2 「恵庭市プレイセンター」調査対象者プロフィール
表 3-5-1 「プレイセンター・ピカソ」の歩み
表 3-5-2　日本版学習テキストの構成内容
図 3-5-3 「プレイセンター・ピカソ」の活動
表 3-6-1 「恵庭市プレイセンター」の歩み

表 3-6-2　恵庭市子育て支援事業の利用状況
図 3-6-3 「恵庭市プレイセンター」の活動
表 3-7-1　インタビュー調査における参加者の声
表 4-1-1　プレイセンター参加者の参加に至る動機についての比較
表 4-1-2　参加に至る動機・ニュージーランド
表 4-1-3　参加に至る動機・日本
表 4-2-1　プレイセンター参加者の教育効果に関する比較
表 4-2-2　参加者への教育効果・ニュージーランド
表 4-2-3　参加者への教育効果・日本
表 4-3-1　地域コミュニティ・ネットワーク形成に関わる参加者の経験
表 4-3-2　コミュニティにおける参加者・ニュージーランド
表 4-3-3　コミュニティにおける参加者・日本

親こそがソーシャルキャピタル
―プレイセンターにおける協働が紡ぎだすもの―